OTC 薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ 2017」対象症候「皮膚・粘膜症状」（第 10 回）報告書

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

【開催目的】

地域におけるプライマリケアの重要な担い手である薬剤師が、来局者の病態を反映する情報や所見を自ら収集して疾患を推測し、適切な対処法を提案・実践するために、臨床判断能力に焦点を当て、薬局にしばしば来局する「皮膚・粘膜症状」を訴える来局者を例に「効果的な情報収集と疾患の推測（症候からの鑑別）」さらに「疾患の重症度に応じた適切な対処法の提案と実践（トリアージ）」の２つのプロセスについて、簡単な演習とロールプレイを交えた参加型セミナーの形で習得することを目的とした。

【実施概要】

① OTC 薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ 2017」対象症候『皮膚・粘膜症状』（第 10 回）

アドバンスト編

開催日時：2017 年 6 月 10 日（土）15：00～17：30（受付開始　14：30）

開催場所：熊本大学 宮本記念館（熊本県）

参加人数：17 名

企画：坂口真弓　先生（みどり薬局、浅草薬剤師会 会長、東京薬科大学客員教授）

山岡和幸 先生（前橋北病院）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

一般社団法人 薬局共創未来人財育成機構（共催）

公益社団法人 熊本県薬剤師会（後援）

概要：「皮膚・粘膜症状」に対する OTC 薬販売方法、選び方、勧め方

入門編

開催日時：2017 年 6 月 11 日（日）9：00～18：00（受付開始　8：30）

開催場所：熊本大学 宮本記念館（熊本県）

参加人数：33 名（プリセプター2 名）

企画：木内祐二　先生（昭和大学薬学部）、狭間研至　先生（ファルメディコ(株)）

日本アプライド・セラピューティクス学会 OTC 検討委員会

一般社団法人 薬局共創未来人財育成機構（共催）

公益社団法人 熊本県薬剤師会（後援）

概要：１）「皮膚・粘膜症状」に対する臨床判断

患者からの情報収集と疾患の鑑別、患者に対するトリアージのプラン作成

―　グループ討議とロールプレイを中心に　―

２）フィジカルアセスメント

基本的なバイタルサインの測定方法 ―聴診、血圧測定などの実習―

【今後の課題】

運営やWSの進め方等、参加者には好評なWSであったが、参加者の募集に関して、開催場所の協力者と共催の薬局共創未来人財育成機構への依存が強かった。今後の募集については、他の類似のWSとの差別化等、工夫が必須と言える。

【印象記】（提出者のみ）

① OTC 薬、プライマリケアを対象とする「薬剤師の臨床判断ワークショップ 2017」対象症候『皮膚・粘膜症状』（第 10 回）

薬局セントラルファーマシー長嶺　櫻間 啓基

今回、OTC 薬を購入にきた患者対応という設定であった。しかし、このワークショップでの学んだ考え方は、保険薬にも必要であり、薬にかかわる薬剤師に必要な知識だと思った。

LQQTSFA から始まり、心理・社会的情報、過去の情報などから症候を推論する。さらに、自分たちの時代には考えられなかったフィジカルアセスメントを利用し、考えて推論していく。

すべてが理に適ったワークショップであり現場で利用できるものばかりであった。投薬時の患者対応もかなり変わり薬歴内容の充実にもつながっている。

医療スタッフへの提案も、根拠ができ今までより自信を持って提案できている。

井上 晃博

「薬剤師の臨床判断ワークショップ」ということで患者の疾患を視診や問診、触診などを通して検討し、トリアージを作成する力を養うことを目標に参加しました。実際にトリアージを作成するにあたっては何よりも患者の情報を聞き出すことが大切であると感じました。聞き出し方として LQQTSFA に沿って行うことが重要であることを再認識しました。そして、薬を渡して終わりではなく渡してからが始まりだという事をしっかり頭に入れ、今日学んだことを明日からの投薬に活かしていきたいと思います。

また、今年から社会人として薬剤師になりましたので、他の病院薬剤師や薬局薬剤師の方々と共に研修するのは初めてでした。年齢層も幅広く、知識も経験も豊富な方が多かったのでとても良い刺激となりました。これを機にもっと多くの研修会や学会に参加し、互いに切磋琢磨しあえるような方々と出会いたいと思います。

最も印象に残ったことは、狭間先生のお話で出てきた薬や患者の状態から病名を診断してはならないということです。確かに検討を付けるのは良いけれど、私たち薬剤師は診断することが仕事ではありません。その点に気をつけて、日々の業務に励んでいきたいと思います。なかなか処方箋を持たずに来局される患者さんは見かけませんが、これからはそういう患者さんや健康な人々にとって身近なものにならなければならないと感じました。

最後に、今回のワークショップの開催にご尽力いただいた、すべての関係者の皆様に厚く御礼申し上げ、また一緒に参加した全ての仲間に感謝致します。

熊本市 託麻中央薬局　田中 優子

超高齢化の日本の医療において、様々な医療職・介護職がチームを組んで患者の治療やケアに当たることはとても大切なことだと思います。チームの中にはいくつもの専門職が存在していて、それぞれに専門分野の職能を発揮することはもちろん大事です。しかし、専門分野以外の問題がある場合に「自分の分野ではないから」といって放棄せず他職種に繋げることも大事ですし、情報を多職種で共有することも大事です。その際には他の職種とのコミュニケーションが発生します。コミュニケーションには、ある程度の共通した認識があった方がスムーズに情報のやり取りができます。今回の WS で学んだ症候学というものは、元来は医師が診断をする際に用いるものなのでしょうが、私たち薬剤師は診断するためでなく、緊急性や重症度の判断をしてトリアー

ジをする手段としてしっかり学ぶ必要があると再認識しました。今回の症例ではOTC購入の場面でしたが、薬局に処方箋を持って来局した方がついでに相談なさる場合もあるでしょうし、在宅訪問時に異変を見つけることもあると思います。そういった際に、適切に判断して、適切に対処・連携する。医療を担うものとして、大事な役割だと改めて思いました。

症候から病名を出すことはできても、情報を整理できなければ、適切な判断までたどり着きません。「LQQTSFA」を意識して情報を集めることが重要だとわかりました。また、木内先生が仰った「とにかく、見る！」という言葉が一番印象的でした。医師や看護師からの情報を聞いて納得していましたが、今後はできるだけ自分も見ることをしていきます。

長時間のご指導を頂き、ありがとうございました。他の症候のWSにも今後参加させて頂きたいと思っております。

ファーマダイワ　ひまわり薬局西合志店　木本 類

今回、実際に臨床判断をロールプレイしてみると、とても難しく、グループでたくさん意見を出しながら、やっとの思いで判断していきました。患者さんから情報をうまく聞き出し、臨床判断していくためには、ひとつの症候から考えられる疾患の引き出しをたくさん持っておく必要があると感じました。しかし、まずは、2割のメジャーな疾患の知識と、薬剤師で留めておいてはいけない重症度、緊急度の高い疾患について知っておくことが大事というお話で、まずはそこから始めようという目標を持つことができました。また、疾患の知識を身に着ける際にも、LQQTSFAを意識して勉強することで、患者さんから得た情報から疾患を推測するために必要な、実際に現場で使える知識を身に着けることができると感じました。薬を使用した結果を評価することも、臨床判断における重要なことだというお話も聞くことができ、臨床判断に必要な情報は、問診によりたくさん得ることができるのだと学びました。今回のワークショップに参加させていただき、臨床判断をより身近に感じることができました。ありがとうございました。

熊本県合志市　ひまわり薬局　細井 京子

私は、日本アプライドセラピューテクス学会のワークショップに参加するのは初めてで、楽しみと共に少し緊張を感じながら参加させて頂きました。

密度の濃い1日は、期待通りとても興味深く、薬剤師にとって実践に即した医療とはどういうことかを教えて頂き、大変勉強になりました。

患者のQOLを改善するための科学的合理的エビデンスに基づく薬物治療を提供していくこと、それは、私にとっては、頭の引き出しにしまいこんで使われなかった知識を直ぐに使えるように並び替えて、いつでも取り出せるようにする作業でした。特に印象深かったのは、五感を使っての状況判断、また決して診断するのではないということです。今までも患者の顔色、表情、話し方、動きなどを見守って対応していましたが、もっと積極的な情報収集をすること、脈、血圧測定、皮膚だったら患部を見せて頂くこと、薬剤師はここまで踏み込めるのかと目からウロコの感覚でした。このワークショップで習ったことを自分なりに研鑽し多くの患者に還して行こうと思っております。

お忙しい中、講師を務めて下さった先生方、今回の会を催して下さった先生方に心より感謝申し上げます。

本当に貴重なワークショップをありがとうございました。

薬局セントラルファーマシー長嶺　澤田 理沙

ワークショップに参加して、在宅医療を含めた地域のチーム医療への参加やOTC薬、プライマリーケアに関して興味が深まりました。また、今後薬剤師に求められるものは何か、どう対応していくのかを具体的に考えるきっかけとなりました。

今の自分の現状では、「疾患」があってそれに対する治療という考え方がまだ大きいです。しかし、今後プライマリーケアの担い手として、また在宅に出たときに「症状」からどんなものが隠れているか、どう行動するのか考えることが重要だと思うので、１つのやり方にとらわれず、複数の方面からアプローチできるよう力をつけていきます。また、患者さんに副作用があらわれた場合も「症状」から考えると思うので、今回参加して「こういったやり方がある」ということを早いうちに学ばせて頂き、本当に良かったと思います。

今回のワークショップで印象に残っているキーワードは、「LQQTSFA、観察」、「薬を渡した後が大事」です。ワークショップで得たことを、少しずつ日々の業務に取り入れています。今後も是非ワークショップに参加したいです。

これからも「患者さんのため」という意識のもと、日々精進していきます。ありがとうございました。

ファーマダイワ薬局　伊藤 德子

初めて参加させていただきましたが、最初予定表を見たときは、その時間の長さに少々気重でした。でも実際始まってみると、座学とは違った雰囲気と、講義の内容に、時間が経つのが早いなと感じました。

これまで、ワークショップ形式の勉強会には、自信の無さや不安から、どうしても足が遠のいていましたが、今回、終了後には、また参加したい、もっと早くから参加していれば良かったと思いました。

思えば、現場でもこれまでの自分は、患者様に対し、こちらからの積極的な声かけや、聞き取りを何となく避け、無難に終わらせていた様に思います。

どうせ聞いても〇〇だから等と、自分に言い訳をつけてやり過ごしてきた自分を戒め、変えていかなければと思いました。

今回、出席を決めたほんの少しの勇気でしたが、その勇気を、最終目標は患者様が良くなるように！を、忘れず、これからは積極的に患者様と向き合っていければと思いました。

今回、皮膚科領域の講義で、名前は知っているけどとか、写真で見たことあるけどとか、自分の知識がとても薄っぺらなものと分かりました。皮膚疾患で来局される方は、結構いらっしゃると思うので、やはり自分の中できちんとした紐付けを早急にやらなければと痛感し、課題も見えました。

本当に貴重な御講義ありがとうございました。

中川 由衣

今回のワークショップに参加して、一番印象に残ったのは、木内先生がおっしゃった「症状の裏には、病気がある」という言葉です。

以前の私は、来局者からの相談の際、経験に頼って判断していたため、未経験の症状に対しては自信が持てず不安でした。しかし「症状は病気が表面化したもの」ということを認識し、各症候を示す疾患を系統的に理解するようになると、例え未経験の相談でも、知識の中から推測し適切に対応することが可能になることを、このワークショップを通じて感じています。

特に今回の皮膚・粘膜症状は、病態を目で見ることができるため、体の中で何が起きているのか鑑別しやすいこともあり、分かりやすく、グループワークにもより熱が入りました。軽度・中等度・重度・緊急のトリアージがしやすい中で、見逃してはいけない疾患についても学ぶ事ができ、とても勉強になりました。

皮膚・粘膜症状はセルフメディケーションで対応しやすく、薬剤師への相談件数の多い症候です。来局者の訴える症状に対してより適切な臨床判断が行えるように、情報を整理し実践で使える知識として蓄えていきたいと思います。

ﾌｧｰﾏﾀﾞｲﾜ　ﾚｲﾝﾎﾞｰ薬局　　鶴山 史

熊本大学宮本記念館にて開催されました勉強会におきまして木内先生、狭間先生には貴重なお話をいただきまして誠にありがとうございました。

皮膚、粘膜症状については日頃より気になっていたことではありましたが、勤務先が皮膚科の処方を多く扱う薬局ではなかったため深く勉強することを怠っていたように思います。

LQQTSFA で得られた情報をもとに作るｱﾙｺﾞﾘｽﾞﾑや、ﾄﾘｱｰｼﾞﾌﾟﾗﾝの作成はとても興味深いものでした。

朝９時から１８時までと長い一日を想像してちょっときついかなと勝手に考えていましたが、実際に始まってみれば濃い、それでいてわかりやくい内容で、あっという間の一日でした。ｸﾞﾙｰﾌﾟ討議、フィジカルアセスメント実習、ﾛｰﾙﾌﾟﾚｲなどいろんなﾊﾟﾀｰﾝでの学習でとても楽しく学べました。

難しいと思っていた皮膚疾患でしたが、今回の学習を終えて、これからは自信をもって患者さんへ応対できるような気がします。また薬を渡して終わりではなく継続してその後の経過を見ていくことの重要性についても自分の中にしっかりとどめておきたいと思います。

薬学部４年生の娘を持つ母でもありますので、これから娘とともに一緒に勉強していきたいと思っております。今回のワークショップ開催にあたりましてご教授いただきました木内先生、狭間先生、ﾌﾟﾘｾﾌﾟﾀｰの先生方大変お世話になりありがとうございました。

前田 亜梨沙

今回初めてワークショップに参加し、普段の自分自身の患者さんへの対応を見つめなおすことができ、とても充実した時間となった。

ワークショップの終盤、ロールプレイを行ったが、皮膚症状を訴える方がいるときに非常に重要だと教わったはずの症状を見せていただくということを忘れてしまっていた。話を聴くだけではなく、実際にみせてもらうことで、自分の想像とは違ったり、症状がよりはっきりすると思うので、今後対応する際は気を付けていきたいと思った。

普段、薬局で相談を受けたとき、話を聴いてすぐに「病院で診てもらってください」と言っていることが多かった。この対応ではせっかく相談していただいても、なんでもすぐに病院に行ってと言われるだけならば今後も薬局で相談しようとはならないだろう。まずはどのような状態にあるのか質問して状態を知った上で、病院の受診を勧めたり、ＯＴＣで対応できると判断すればＯＴＣでの対処をおすすめできるようになりたい。

今回のワークショップを通して自分の知識のなさを痛感した。適切な判断をし、地域の方に信頼される薬剤師となれるよう、きちんとした知識を身に付けていきたいと感じた。

２号橋くらしの薬局　本田 卓輝

今回、「皮膚・粘膜症状」入門コースを受講しました。学生の頃より、副作用の名前はよく聞き学びます。ただし、日頃の業務でその症状がどのような状態なのか、実際の症状として今一つ理解が出来ないことが多いように思えます。例えば救ある患者さんが「皮膚に炎症が起きました。昨日もらった薬のふくさようですか？」と来局された場合、どこまで判断ができるのか？もし救急を要するような皮膚症状に気付かずにそのまま帰してしまったら・・・改正された「薬剤師法の第二五条の二の薬学的知見により・・・指導」対して務がまっとうできてないのではないかと感じます。

今回、受講したことで、皮膚の症状のみかた、アルゴリズムを使いおおよその状態を予測できる力をすこしでも身につけられたのではないかと思います。

また、ここ最近ＯＴＣを販売する機会も増えてきています。症状から病名へのつなぎは薬剤師が最も不得意とすることだと考えます。学生時代に教わったこともありません。実家がもともと、漢方、ＯＴＣ販売の薬局だったこともあり、開設した父のＯＴＣの判断が違うことが多々ありました。そういえば、昔、いったんＯＴＣなどで様子をみて、症状の改善がなければ病院へ受診とゆう流れがあったような気がします。しかし、意外と多くがＯＴＣのみで状態が改善してたことも思い出しました。

適切な症状の判断力は特にここ十数年の間に低下していたのではないかとおもいます。

皮膚症状のみならず、症状から病名をいくつかに絞り込む訓練はこれからさらに必要とされる知識だとおもいました。

今回の講習会に参加するうえで、自分の知識不足で話についていけるか不安でしたが、グループワーク方式で講義内容が進んだ為、少し安心しました。

参加してみて、鑑別のアルゴリズムを作るむずかしさがありました。日頃より意識をして、業務にあたらなければならないと改めて感じさせていただきました。渡した薬に責任を持ちたい。そのためには副作用や、症状を口で説明するだけではなく、ある程度の臨床判断が必要となると思います。ＯＴＣを販売するうえでも非常に重要なスキルだと思います。そのための確認事項、「ＬＱＱＴＳＦ、バイタルサイン」は基礎知識としてしっかりとこれからも学びたいと思いました。

株式会社ファーマダイワ　南熊本調剤薬局　手島 由道

今回のワークショップに参加し、症候からいくつもの疾患を挙げることの難しさを痛感し、勉強しなおさなければと感じた。特定の病院の門前薬局で働いている中でも、何度か処方せんを持たずに外用薬を買いに来る患者に対応したことがあったため、今回のようなプライマリケアのワークショップの必要性は感じていた。今回、症候から疾患を推察し、その対応までのアルゴリズムを構築するという考え方を学べたことは良かったと思う。今回の内容を復習して、皮膚疾患だけでなく、頭痛や腹痛などについても薬局で正しいトリアージが行えるようになりたいと思う。また、近未来を想定して、医療用医薬品がさらにスイッチ化されたと仮定して、対応策を考えることもおもしろかった。そうなると薬局薬剤師の役割が増えると同時に、責任も大きくなるためより医療人としての緊張感を持って仕事に取り組むことができると感じた。

今回、貴重な体験をさせていただいて、講師の先生方並びにスタッフの皆様には心より感謝申し上げます。

家本薬局　家本 亜希子

今回は日帰りできる熊本開催なので、知り合いの薬剤師さん達と参加したかったのですが、他の研修会と重なり、単身で挑みました。同じグループになった先生方も優しく、楽しく勉強できたと思います。皮膚・粘膜症状というと、身近なかぶれや虫刺症、自分で体験した疾患から、写真を見た程度だけど有名な疾患など、たくさん習い覚えたはずでした。ワークの中で、いざ列挙しようとしても出てこない疾患というのは、疾患名のみ覚えて性状や特徴まで説明できないもの、出会う頻度の少ないものばかり。講義の際「見ればわかる」という言葉が出てきたときに、ベテラン薬剤師さんが経験でそう言っていたのを思い出しました。言い訳になって恥ずかしいのですが、皮膚疾患関連のOTC薬を置くのにいつも購入傾向と期限切れで悩みます。地元の事情も踏まえて市内の薬剤師でディスカッションしたいなと思います。自分の勉強不足を棚に上げますが、今回発疹の性状を一から教わることができ、参加した甲斐がありました。グループワークで近未来を想像しながら対応を考えるところがいつも楽しく、今回は「水虫かどうか薬局で測定できる」が印象的でした。簡易測定技術や法的なこと、色々な事情があると思いますが、患部を撮影して専門家に診てもらう専門アプリも限定で存在すると聞き、半ば実現しそうな気にもなりました。便利なものに頼るだけでなく頭の中も鍛えてまた参加したいです、ありがとうございました。

以上

平成 29 年 6 月 11 日

第 10 回　薬剤師の臨床判断ワークショップ　入門コース
アンケート結果

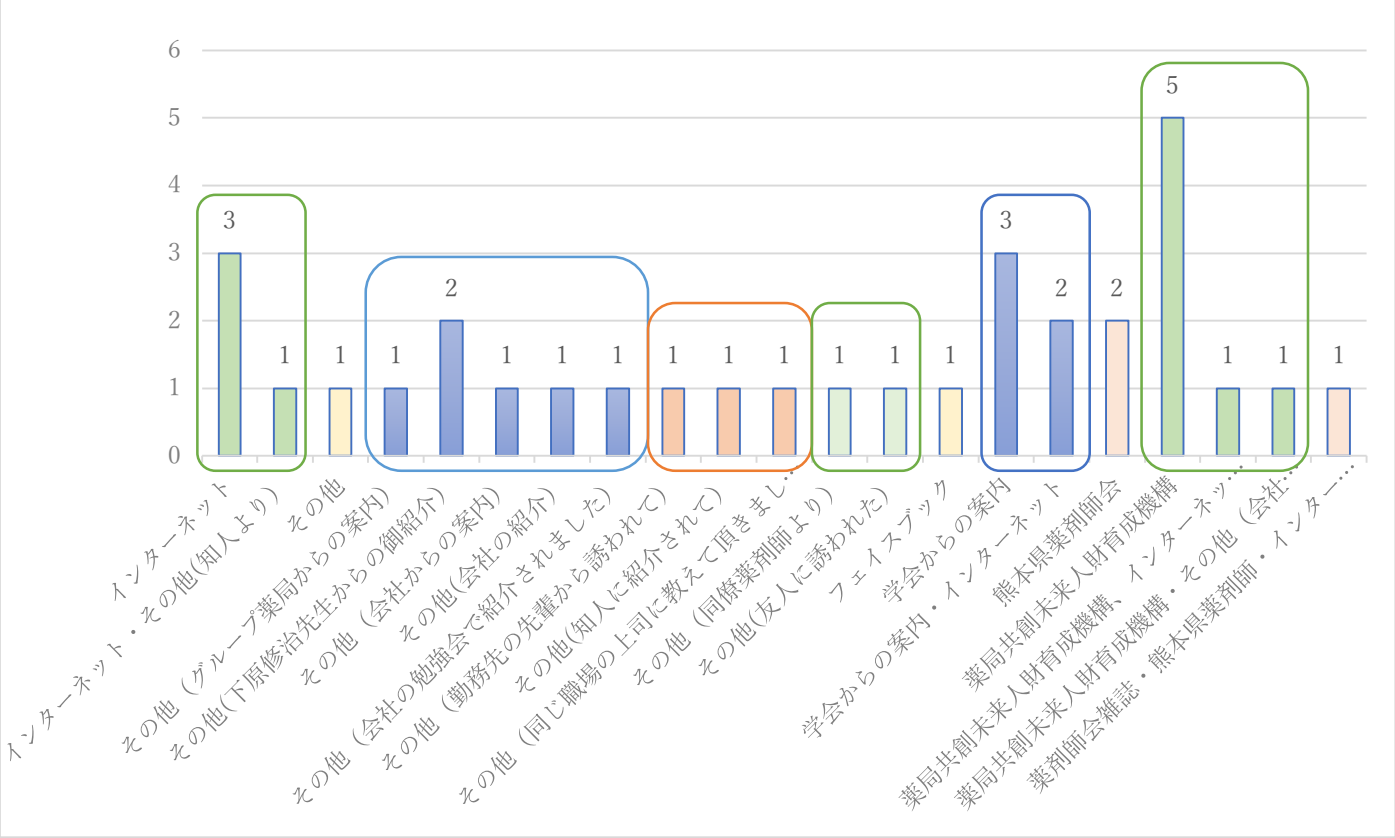
開催日：平成 29 年 6 月 11 日（土）9:00～18:00
参加者：32 名+プリセプター1 名

1）あなたについて

病 院 薬 剤 師	1 名
保険薬局薬剤師	32 名

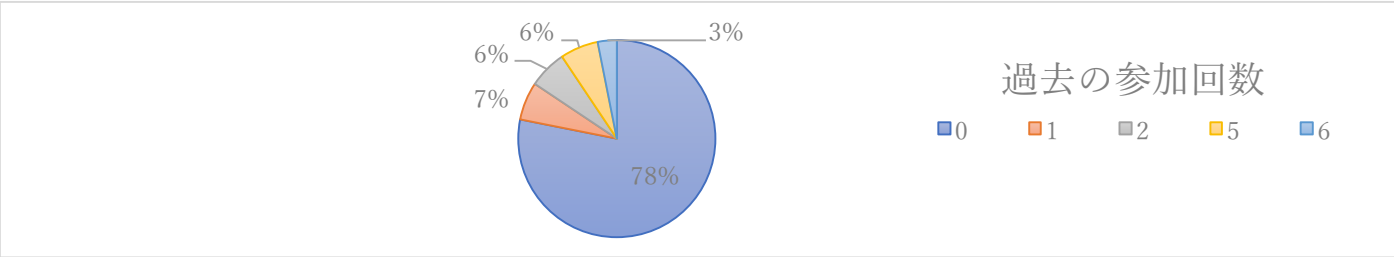
2）ワークショップの情報をどこから得られましたか

・インターネット（facebook 含む）・・・8 名

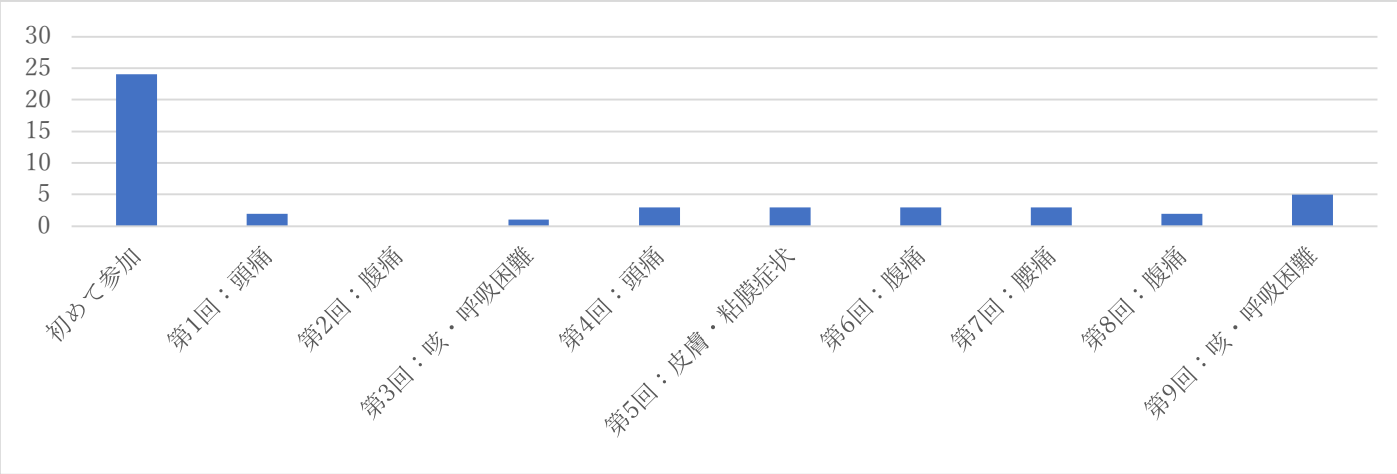


３）今までに開催していますワークショップに参加されていますか

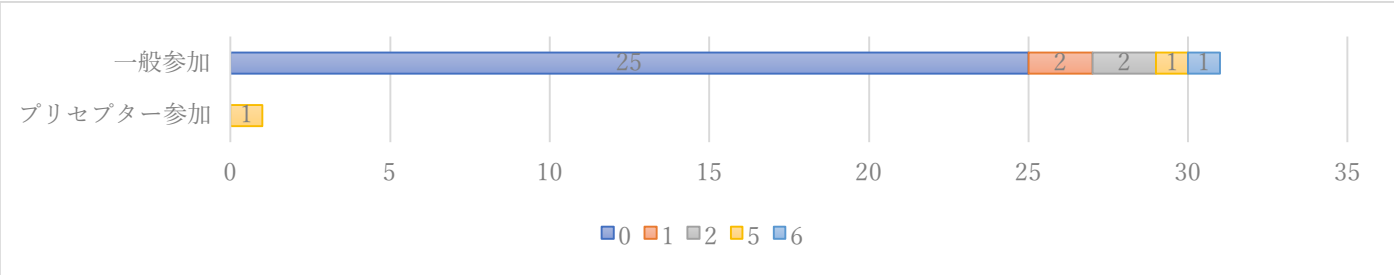
過去に開催したワークショップ参加回数



今回参加者の、過去に開催したワークショップへの参加人数

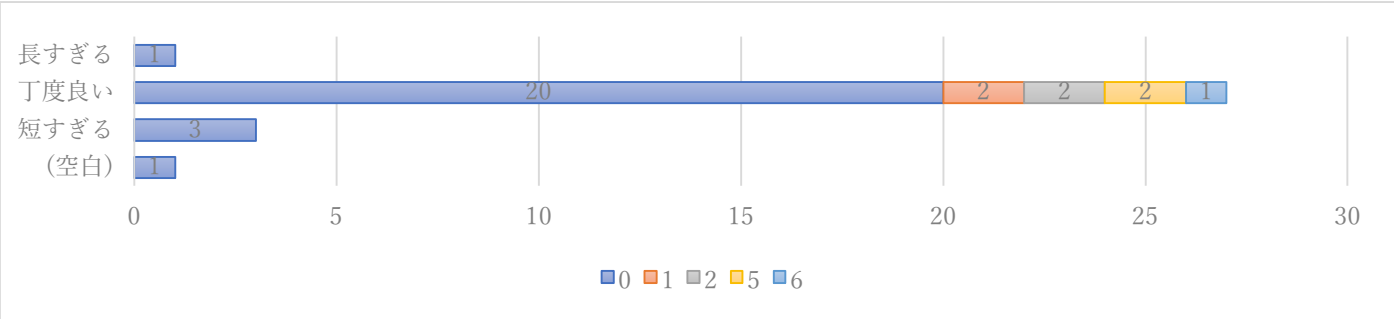


４）今回参加されたのはどちらですか



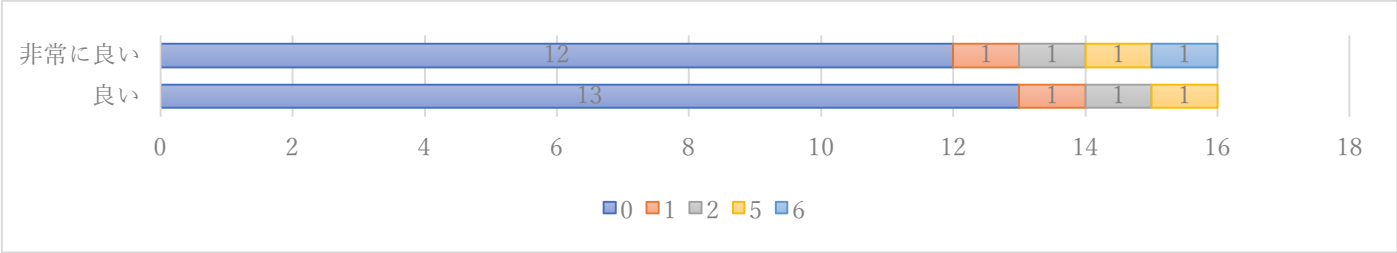
５）アドバンスワークショップの内容について

a　時間



丁度良い	多少速足だがスケジュール的に限界だと思う
短すぎる	もっともっと勉強したいと思いました
丁度良い	集中できるのはここまでです。

b　配布資料

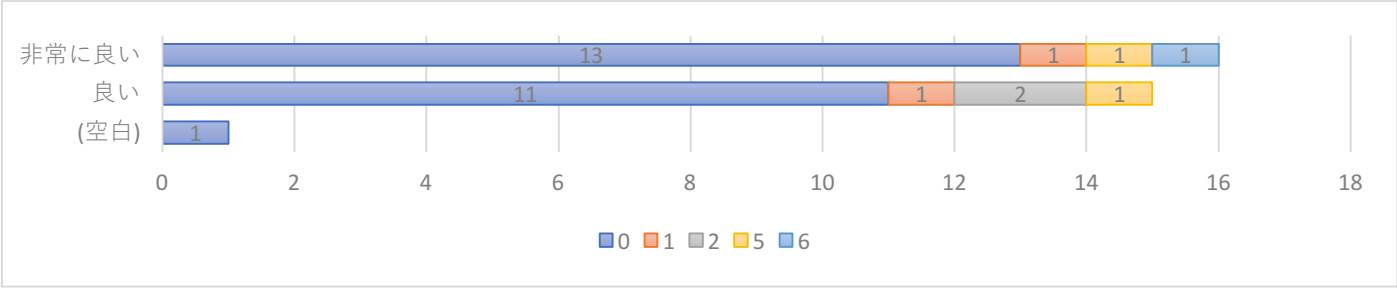


良い　　WS を進めるのに支障ない内容でした。

非常に良い　　かえってから、他の薬剤師にも見せたいと思います。

良い　　もう少し字が大きいと嬉しいです。

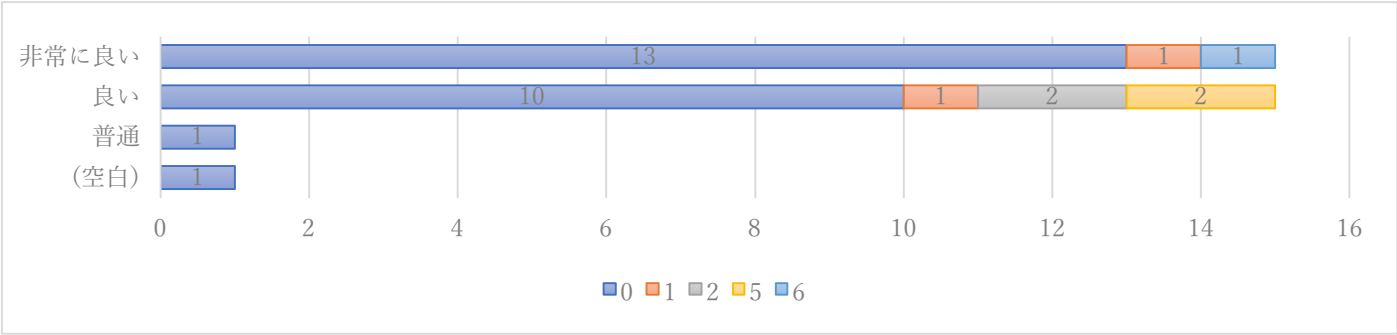
c　プログラムは期待に添うものでしたか



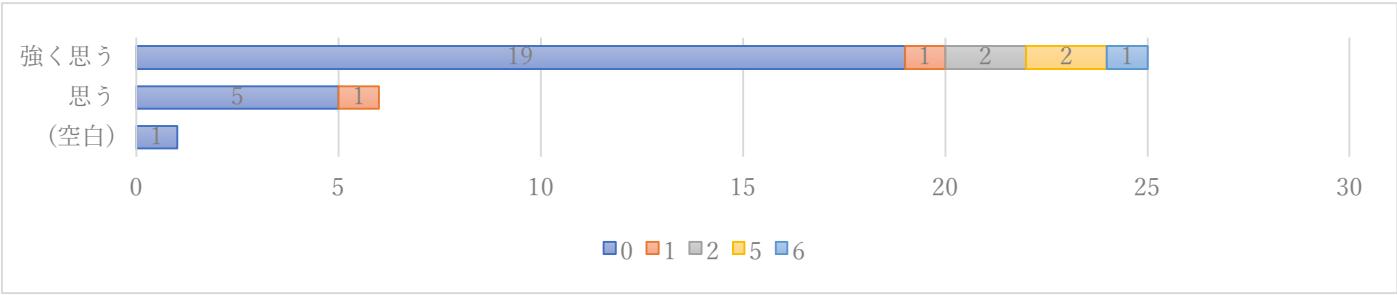
良い　　講義とワークが適度に混ざっていて長時間でも集中できた。

非常に良い　　勉強したいと思っていましたが、自分ではなかなか出来なかったので

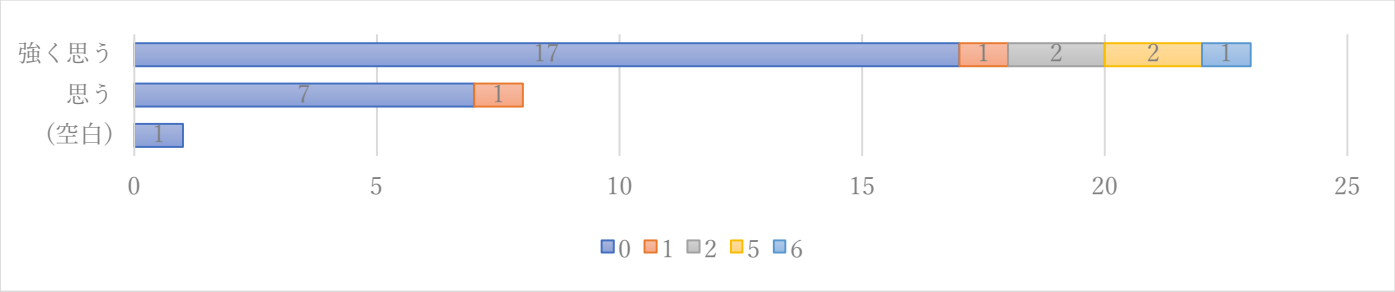
d　内容は理解できましたか



e　適切な OTC 医薬品の選択に対する考え方は業務の役に立つと思いますか。



f　このアドバンスワークショップ全体は業務の役に立つと思いますか



非常に良い　　勉強したいと思っていましたが、自分ではなかなか出来なかったので

g　感想

症状を詳しく訊く、観ることから患者様に対応していくことについて色々学べました。 ありがとうございました。
貴重な体験をありがとうございました。 薬局にもどり、日々の業務に反映させていきたいと思います。
初めて参加させて頂きましたが、大変勉強になりました。 今後の業務にも生かしていければと思います。
薬剤師がこれから必要とされる技術を学ぶことが出来ました。 また、その考え方を身につけたことで、今後の学習についても活かせると思います。
皮膚疾患はあまり処方が無かったのでとても勉強になりました。 他のワークショップにもぜひ参加させていただきたいと思います。 今回の事から学んだことをしっかり生かしてアウトカムをしていきたいです。
参加し練習を重ねる毎に情報の整理や引き出し方が少しずつ身についてきたように感じます。 まだまだ未熟でありますが、技能を取得し、地域で役立つ薬剤師となれるよう研鑽を続けていきたいと思います。
皮膚・粘膜症状は思っていたより以上に薬剤師が関わっている症状だとおおいました。 これからはセルフメディケーションを薬剤師として支援していくには、まず、皮膚・粘膜症状に関わっていくべきだと思いました。
皮膚・粘膜症状の WS は 2 回目でしたが、トリアージ矢セルフメディケーションの支援を行うための思考プロセスを再確認できる良い機会でした。
疾患について、うろ覚えだったところが分かったので、勉強し直して、実務に活かしていきたいと思います。
このワークショップで学んだことを明日からの業務に活かすと共に若い薬剤師に期待と応援をしていきたいと思いました。
初めての参加でしたが楽しく学ばせて頂きました。 LQQTSFA、薬を服用した後の重要性を思い出して日々精進します。
・大学の 6 年教育で学んだことを積極的に現場で取り組むようにしており、フィジカルアセスメントやバイタル在宅業務、OTC でのトリアージも実施しているが、現場の他のスタッフとの温度差を感じながら日々過ごしている。今後もこのような勉強会に参加し、患者から選ばれるようになれば現場も変わっていくのかと思われる。 今までの薬剤師のようなシール集めではなく、本会員や本講座を受けた薬剤師が自己満足ではなく、何を実

績として（患者のプレアボイドのようなもの）残したかというデータを国に上げる必要がある。
今後の薬剤師のあり方について、深く考えることが出来ました。
症状に対してどのような病態化を考えるという作業は今まであまりやったことが無かったので、新鮮でした。 次回も是非参加したいです。
・発疹自体、よくあるもの以外を見たことが無いのと、習ってこなかったので、とても勉強になりました。 ・繰り返し勉強していかないと身につかないので若い薬剤師さんに負けないよう続けたいとおもいます。 次回こそ仲間を連れてきたいです。
初めて参加しましたが、また参加したい。
今回初めて参加させて頂きました。始まるまでは 9 時間を言う長い時間に少々気が重かったのですが、実際、参加させて頂いて、時間の経つのがあっという間でした。 是非、これからの日々の業務に活かして頑張っていきたいと思います。(やってみようという気になりました。 有難うございました。
疾患が分からないと内容が難しいため、ある程度の予習等が必要と思いました。
具体的なアセスメントが出来るようになったと思います。 是非臨床で実践したいと思います。 他の症例の WS にも参加したいと思います。
患者のセルフめでぃケーションに貢献できるように頑張りたいと思います。
非常にわかりやすい内容でした。
最初、長時間だなと思いましたが短く感じました。 全部このワークショップを受けたいと思います。有難うございました。

６）

a)　プリセプターとして申し込まれた目的・理由

認定指導者申請のため

臨床判断の取り組み方を深めるため

(ご意見) 初めてこの WS に参加させて頂いてからもう 3-4 年になりますが、ようやく申請できるようになりました。今後とも宜しくお願い致します。

b)事前打ち合わせ内容は十分でしたか

当日の運営に支障なく十分でした。

c)グループでの進行に当って頂きましたが、課題と感じた事項をお書きください。

グループ討議を妨害せず目標を達成させることの難しさを実感しました。(特に時間配分)

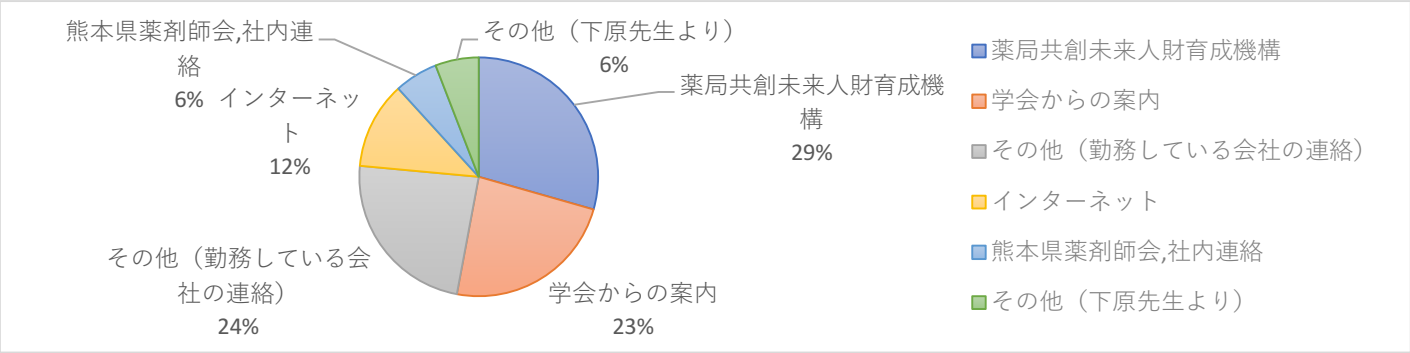
第 10 回　薬剤師の臨床判断ワークショップ　アドバンスコース
アンケート結果

開催日：平成 29 年 6 月 10 日（土）15:00～17:30
参加者：17 名

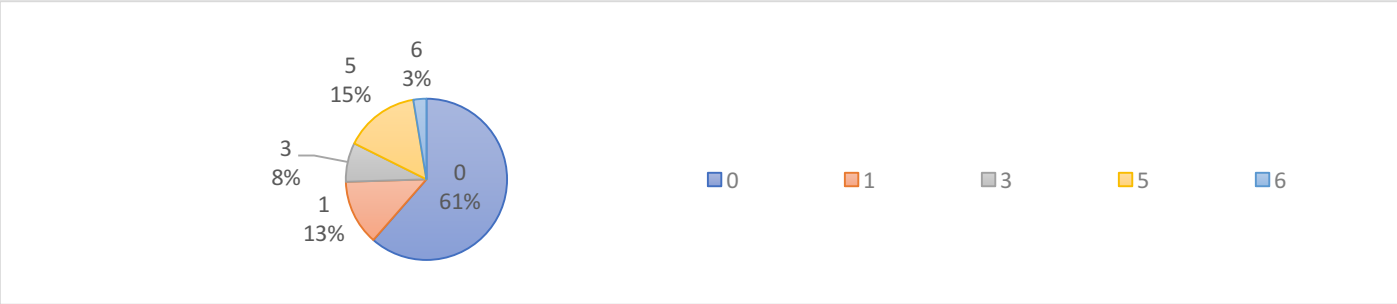
1）あなたについて

大　学　教　員	1 名
保険薬局薬剤師	16 名

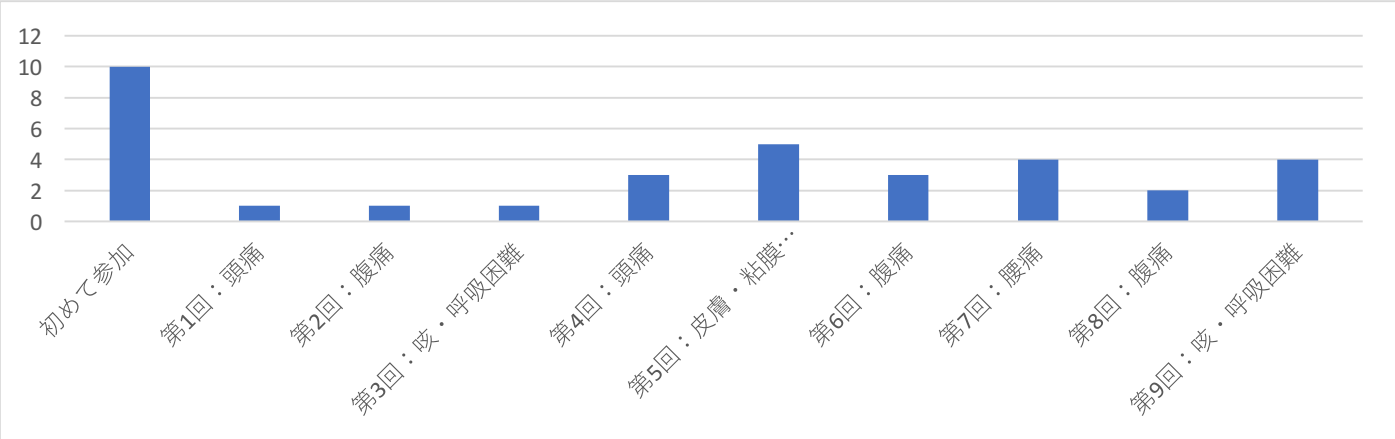
2）ワークショップの情報をどこから得られましたか



3）今までに開催していますワークショップに参加されていますか
過去に開催したワークショップ参加回数

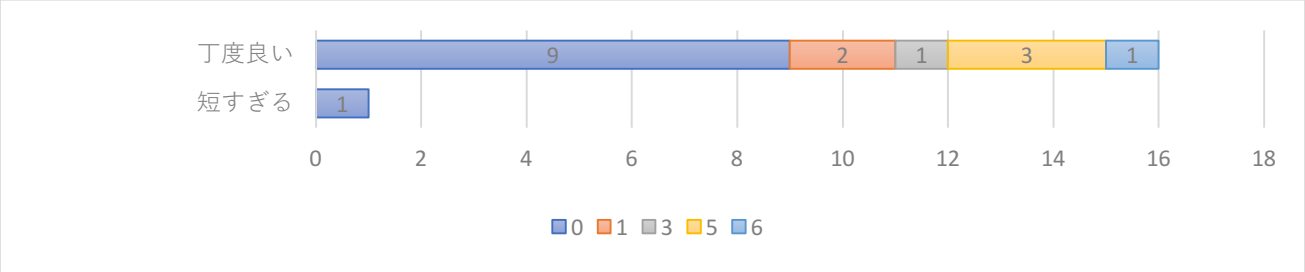


今回参加者の、過去に開催したワークショップへの参加人数



4）アドバンスワークショップの内容について

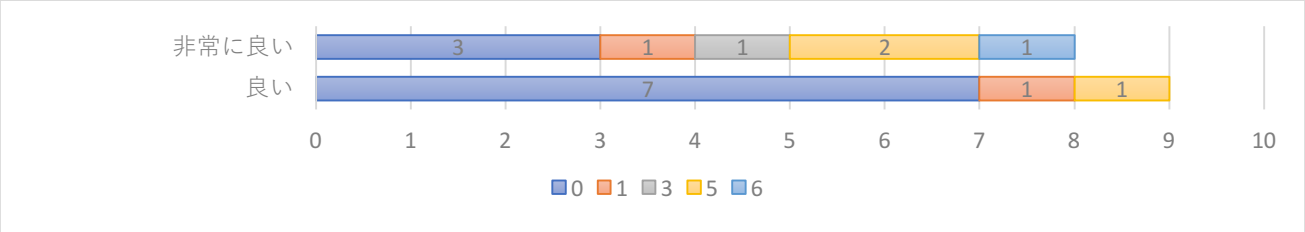
a　時間



「丁度良い」のコメント

・ワークショップの時間をもう少し増やして欲しい

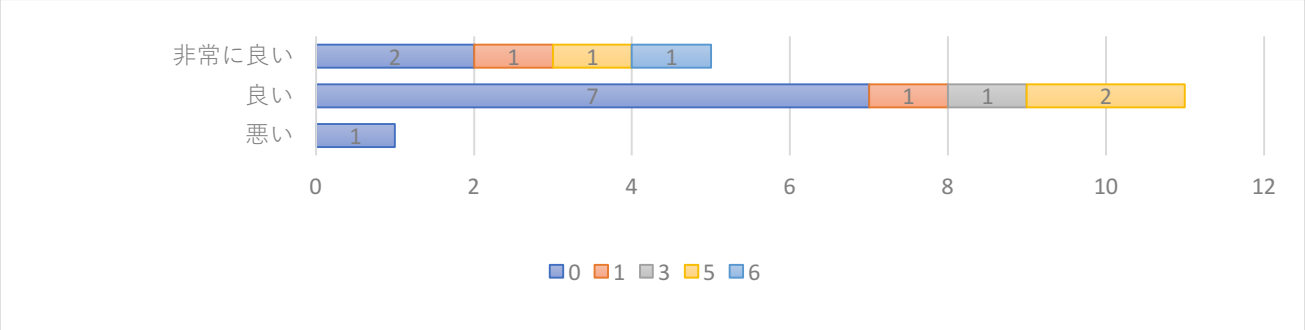
b　配布資料



「非常に良い」のコメント

・皮膚は所見が大事だと思うので、写真が多いのは良かったと思います。

c　プログラムは期待に添うものでしたか



「良い」のコメント

・もう少しロールプレイに時間をかけた方がよかったかなと思います。

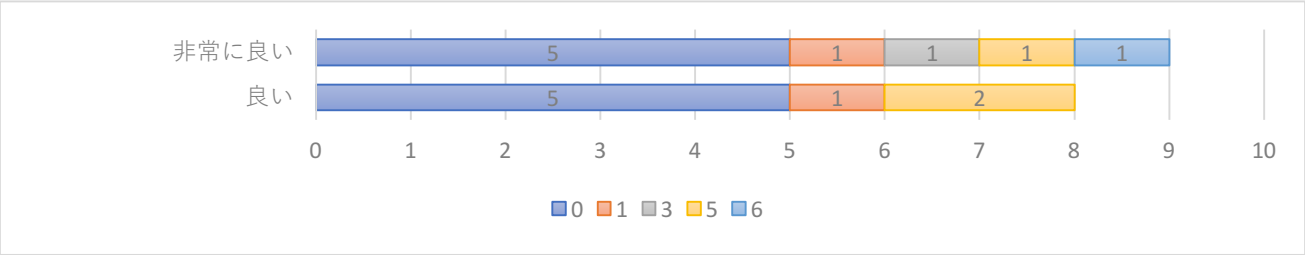
・時間が短くて残念

※　「悪い」を挙げた方の感想

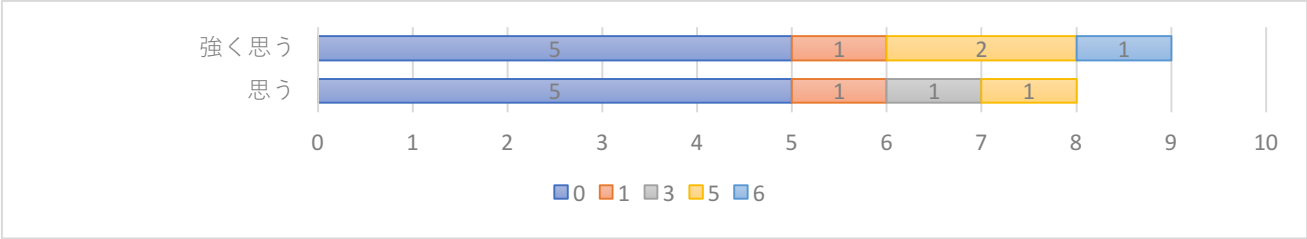
　・実践的な内容がもう少し多ければよかった思います。

　・様々な疾患のトリアージ等

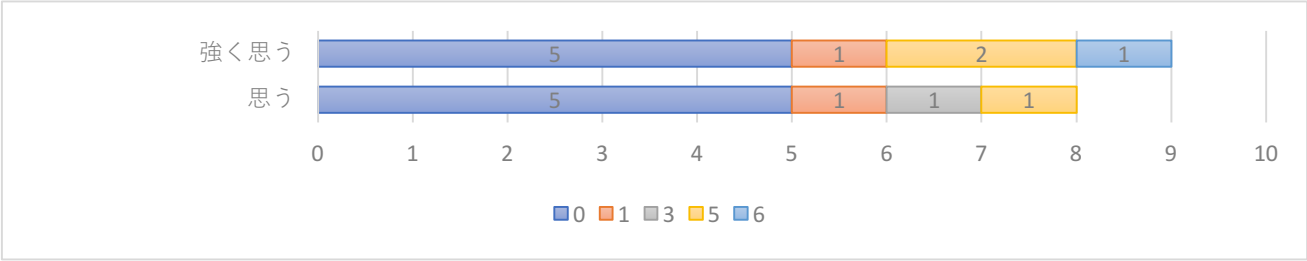
d　内容は理解できましたか



e　適切な OTC 医薬品の選択に対する考え方は業務の役に立つと思いますか。



f　このアドバンスワークショップ全体は業務の役に立つと思いますか



g　感想

OTC を選ぶポイントを再確認出来ました。 同効薬 OTC の違いや特徴にポイントを置いて、解説として頂くと非常に勉強会になります。
内科の門前薬局で勤務しています。 皮膚疾患に対して OTC で尋ねられる事が増えてきていたのでタイムリーな内容でした。 OTC で対応するのか、受診勧告を行うのか、部位を見せて頂き判断することが重要と再確認出来ました。
ワークショップを行うことで、実際の状況を想定して学ぶことが出来ました。 グループ討論の時間がもう少しあると、より深く理解が進んだのではないかと感じました。
実際の業務にすぐに役立つ感じがします。 OTC 医薬品を選択する際にポイントをいくつか挙げて考えていく（絞っていく）やり方を身に着けていきたいです。 また、数種類の貼付文書からリストで表にすることは互いの医薬品を比較する上で、非常に分かり易いです。
OTC の違い、選び方の勉強になりました。 他が疾患についても勉強していきたいと思いました。 患者さまに適切におすすめし、アドバイスできるようになりたいです。 ありがとうございました。
あっという間に時間が過ぎてしまいました。 より実践的な練習が出来て、大変勉強になりました。 ありがとうございました。
OTC について、日ごろから慣れている薬剤師とそうでない薬剤師がいるとおもうので、このワークショップの普及により薬剤師の地域における有用性があがれば、適正な薬（医療法、一般用にかかわらず）の使用に貢献できると思う。
今まで漠然としていた OTC に対する考えが少し整理できたように思えます。 これからもう少し深く OTC を掘り下げてみたいと思います。 ありがとうございました。
実践的な内容がもう少し多ければよかった思います。 様々な疾患のトリアージ等
なかなか OTC 販売の機会がないのでとても勉強になりました。 ワークショップは具体的に考えられるので、良かったです。 ありがとうございました。